

第11回JLAシミュレーション審査会 参加者募集要項

シミュレーション 2026

実施通知

2026年10月19日

救助救命本部

パトロールレスキュー委員会

- 名 称 第11回JLAシミュレーション審査会
- 目 的
 - ① 溺者・傷病者に対する救助救護技術の向上と、関係法令に遵守し、専門分野の有識者指導の下、ライフセーバー間の技術共有を目的とします。
 - ② 医療機関まで『命をリレーする一員』として、ライフセーバーと公的救助機関との連携能力向上を目的とします。
 - ③ 日本各地の活動環境にあわせたシミュレーションを実施することで、実施者、審査員とともに様々な想定を学び成長できる機会とするとともに、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。
- 日程場所 2026/11/28（土）福岡県糟屋郡新宮町下府 新宮海岸
※今年度は、JLA が主催する審査会は上記と10月31日（土）神奈川県横浜市金沢区海の公園（エントリー締め切り済）の2箇所となります。
- 主 催 公益財団法人日本ライフセービング協会
- 後 援 海上保安庁、消防庁、福岡県、新宮町【各予定】
- 協 賛 ソニー生命保険株式会社
- 協 力 調整中
- 審査項目
 - ① 継続監視要領
 - ② ライフセーバー間の連携要領
 - ③ 傷病者への観察要領
 - ④ 救急隊への引き継ぎ要領
 - ⑤ 観衆への対応要領
 - ⑥ 監視長の指揮要領
 - ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
 - ⑧ 環境に配慮した対応要領（感染対策含む）
 - ⑨ 接遇要領
 - ⑩ 関係者の対応要領
- 想 定 想定概略
 - ① 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。
 - ② 原則6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。
 - ③ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。
 - ④ 遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
 - ⑤ 実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
 - ⑥ 総括の指示で係員が計測を行い、総括の「想定終わり」の合図によって審査終了とします。
 - ⑦ 想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項などを実施者にお知らせします。

実施時間

12分間（実施チーム数によって変更します）

実施人数

原則6名 内訳(監視長1名 監視員5名)

使用資器材（地域によって変更の可能性あり）

- ① レスキューボード、レスキューチューブ×2、双眼鏡、パイプ椅子×3、拡声器、AED（訓練用AED、訓練用パット×2）、バックボード、傷病者記録票（バインダー含む）、ディスポグローブ×100、トランシーバー×4基（仮想消防含む）、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷のう×1、毛布、アルコールなど（事前に手に取って確認することができます）
- ② その他、普段監視業務などで使用している資器材の持ち込みを可能とします。
- ③ 傷病者に着用させる感染対策は各チームでご用意ください。
- ④ JLAの用意するAEDパットについては実機用となります。訓練用とは違い粘着力が強くなっていますので扱いに慣れるために、期限切れの実機用パットを体験するなど準備しておくことをお勧めします。

■表彰 審査結果により優秀チームを表彰します。

■審査員の構成等

- ① 審査員は主催団体本部から5名と地域クラブから8名、JLAスーパーバイザー、JLAメディカルダイレクター、外部審査員として消防庁様（若しくは消防関係者様）、海上保安庁様の原則約20名の構成とします。（地域によって変更あります）
- ② 地域クラブ代表の審査員は原則2年連続従事せず、審査員経験者を増やしたく希望します。
- ③ 地域クラブ代表の審査員は、原則前の年に従事した地域クラブ代表の審査員により推薦され、救助救命副本部長により承認します。
- ④ 救助救命副本部長は原則毎年、審査長として、救助救命副本部長は原則毎年、審査員として従事します。
- ⑤ アカデミー副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑥ スポーツ副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑦ 教育副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑧ 各審査員等に欠員が出た場合、救助救命副本部長の推薦により、救助救命副本部長が承認することが可能とします。
- ⑨ 地域クラブ代表選出の審査員は、長年クラブ運営に携わり、多くのライフセーバー育成に貢献し、監視業務の連携活動に高度な審査が出来る者とし、また、公的救助機関との連携活動を審査出来る者を推薦・承認することとします。
- ⑩ 新規に開催される開催地の審査員の選抜は、当該都道府県協会の推薦した地域クラブが、上記⑨に該当する人物を選出（人数は各要相談）し、救助救命副本部長が承認します。
- ⑪ JLA各都道府県協会は、視察を兼ねて代表者1名を派遣していただき、審査会オブザーバーとして参加願います。

■エキストラの募集

受付先：JLA事務局メール受付にてエキストラの公募を行います。

皆様のご協力よろしくお願いいたします。 patrol@jla.gr.jp 担当 蛭間・中山

■審査員の発表

実施日前迄にライフセーバーズなどで実施細部として別途お知らせします。

■実施細部の発表

ライフセーバーズで別途お知らせします。

■審査員及びエキストラへの事前説明会

実施日当日朝に行う予定です。

事前説明会実施場所や時間は別途該当者へ連絡します。

■審査結果及び検討推奨事項発表

2027年2月5日（金）迄に協会HPにて発表します。

検討推奨事項を次年度のパトロールの連携技能や審査会に活かしてください。

■参加費 1チーム6,000円

■参加チーム数

原則、最大6チームとし、申込順で締め切りとします。

■お申込み方法

1. 参加者募集要項の全ての書類を良く読み、参加規定を承諾した上でお申し込みください。
2. 参加者申し込みされた方は同時に同意書を承諾したものとし、みなします。
3. **申し込み開始は、2026年10月21日（水）12:00からです。**

2026/11/28（土）福岡県糟屋郡新宮町下府 新宮海岸

申込締切 11/11 12:00

Webエントリーすべての項目に記入願います

申し込みURL → <https://forms.gle/SXn29qpuewiTrYLNA>



申し込みQRコード

4. 参加費は **1チーム6,000円**を申込締切日までに下記の口座へお振り込みください。恐れ入りますが振込手数料につきましては振込者側でご負担ください。

金融機関・支店名：三菱UFJ銀行 新橋支店（店番433） 口座種類・番号：普通 5298841 口座名義：公益財団法人日本ライフセービング協会 ザイ）ニホンライフセービングキョウカイ
--

※振込の際には、「チーム（クラブ）名略称 もしくは 振込者個人名」・「審査会」を必ず付けてください。【入力例】浜松町・審査会

5. 参加規定を満たしていない場合、Web入力の不備、参加費の未納等は参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。また、各都道府県協会会員登録の手続きをされていない方、各都道府県協会会費未納のクラブは、本審査会に出場できませんので、予めご了承下さい。
6. 全てのWeb申込入力事項はメモを取り、控えをお持ち下さい。
7. Web申込入力事項の個人情報、審査会プログラムに掲載される可能性があります。
8. 参加申込および参加費振込みの締切りは**原則、最大6チームとし、申込順で締め切りとします。**ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

■参考時系列 10/19(月)	都道府県協会に速報連絡
	協会HP及びFBで告知
	ライフセーバーズにて配信
10/21(水)	申し込み開始 12:00 から
	審査員候補者へ依頼開始
	エキストラ募集開始
各実施当日	審査結果発表
	2/5(金) 迄に検討推奨事項発表

～お申し込み・お問い合わせ先～

公益財団法人 日本ライフセービング協会 担当 蛭間・中山
〒105-0022 東京都港区海岸 2丁目 1-16 鈴与浜松町ビル7階
TEL: 03-6381-7597
<https://ls.jla-lifesaving.or.jp/> info@jla.gr.jp
(電話お問い合わせ時間 12:00～18:00)

第 11 回 J L A シミュレーション審査会

参加規定 及び 同意書

1 [参加資格]

実施者の参加資格は下記の 3 点を共に満たしている者、若しくは本協会が特別に参加を認めた者でなければならない。

- (1) 実施者は、審査会当日満 15 歳以上でなければならない。但し中学生を除く。
- (2) 実施者は、ライフセービング活動を志し、出場する審査会の過去 2 年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、協会が認める教育活動に 25 時間以上従事した者でなければならない。
- (3) 実施者は、締め切り日までに、本協会の第 1 種から第 6 種の団体に登録していなければならない。
- (4) 実施者は、ベーシック以上の資格を所有していなければならない。実施者が高校生の場合は、BLS および W S 以上の資格を所有していなければならない。

2 [チームの参加資格]

- (1) チームは、締め切り日までに、本協会の第 1 種から第 6 種の団体登録が完了していなければならない。また、1 団体からの出場は原則 1 チームまでとする（所属浜毎の出場を認めます。ただし、1 日最大実施チーム数 12 を超えた場合は出場制限をかけます。）。ただし参加チーム数が多くなり、運営に影響があると判断された場合は出場数に制限をかける可能性があります。
- (2) チームは、同じクラブに所属する実施者により構成されていなければならない。

3 [出場登録]

実施者は、あらかじめ申し込み手順に沿った Web エントリーをしなければならない。なお、エントリー後の参加者の変更は、パトロールレスキュー委員会に届け出て、認められなければならない。

4 [チーム代表者]

各参加チームはチームを代表する者としてチーム代表者を 1 名おかななければならない。なお、チーム代表者と実施者はこれを兼任することができる。

5 [服装]

- (1) 各チームは、普段監視業務で使用するユニフォームを着用すること。JLA 公式ユニフォームを使用しているチームは、原則として当年度に配布されたユニフォームを着用する事。
- (2) ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる実施者も審査会に参加することができない。
- (3) チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに審査会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。
- (4) 審査会主催者が指定する衣類（ラッシュゼッケン）を審査会中に着用していただくことがある。
- (5) 新型コロナウイルス感染予防策として、2024 年 6 月 6 日 JLA メディカルダイレクター、JLA 救助救命本部、JLA アカデミー本部通知（[新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2024](#)）（2026 年度と同ガイドラインが発表された場合は最新ガイドラインに準ずる）をよく確認して頂き、活動内容に応じて適切な感染予防を行ってください。

6 [参加費]

- (1) 参加費は、1 チーム 6,000 円とする。
- (2) 参加費は、参加申し込みの締め切り日までに支払わなければならない。
- (3) 参加申し込み締め切り後の参加登録の取り消し、天候その他の理由により、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。
- (4) 実施者が欠場、あるいは失格となった場合でも参加費は返還されない。

7 [使用器材]

- (1) 審査会に使用する器材は想定に示された物を審査会主催者が用意するが、その他、普段監視業務で使用している資器材の持ち込みを可能とします。ただし持ち込み器材が審査会中に破損した場合でも、審査会主催者は責任を取りかねます。
- (2) 主催団体は、実施者の器材の検査・再検査を審査前、審査中、審査終了後任意に行うことができる。器材に著しい事前工作など、普段の監視業務での使用状態としてあり得ない場合は、実施者はその器材を使用できないか、または失格となる。
- (3) 審査会主催者が指定する表示物を器材等に貼用していただくことがある。
- (4) [傷病者に着用させる感染対策は各チームで用意すること。](#)

8 [実施規則]

審査会実施人数は 1 チーム原則 6 名とします。ただし参加チーム内で 6 名確保が困難な場合は、JLA 事務局に事前連絡した場合に限り、審査会実施人数を 1 チーム 4 名若しくは 5 名の構成でも可能とします。

9 [その他]

- (1) 審査会中に審査会主催者および審査会主催者が認めた者が撮影した写真、映像をライフセービングの広報の目的で使うことがあります。
- (2) 審査会中に審査会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがあります。
- (3) 審査会主催者への登録事項に虚偽が認められた場合、審査会への参加や記録が取り消されることがあります。

2026 年 10 月 19 日

実行委員
エキストラ
審査員
参加者
様

救助救命本部長

第 11 回 J L A シミュレーション審査会

【福岡県糟屋郡新宮会場】想定の一部公表

1. 審査票

別紙 1 から別紙 5 の通りとします。

2. 配点割合

別紙 6 の通りとします。

3. 想定

別紙 7、想定 8 の通りとします。

4. その他

上記全てに変更の可能性があります。変更があった場合は、審査会実施細部若しくは審査会当日の開会式で伝達します。

2026 年 10 月 19 日救助救命本部通知第 11 回 JLA シミュレーション審査会参加募集要項の通り 2026/10/21 から申込を開始し、参加定員に達した若しくは 2026/11/11 の申し込み締め切り後に、審査会実施細部を通知します。

問合せ先

公益財団法人日本ライフセービング協会

〒105-0022 東京都港区海岸 2-1-16 鈴与浜松町ビル7階 担当 蛭間／中山

T E L : 03-6381-7597 Mail : a-hiruma@jla.gr.jp / nakayama@jla.gr.jp

(問合せ時間 12 : 00-18 : 00)

監視長審査票

番号	項目	小項目	点数				小計
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4	
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4	
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4	
4	有事対応	公的救助機関対応	1	2	3	4	
5			1	2	3	4	
6			1	2	3	4	
7			1	2	3	4	
8			1	2	3	4	
9			1	2	3	4	
10			1	2	3	4	
11			1	2	3	4	
12			1	2	3	4	
13	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4	
14		危険行為がなかったか	1	2	3	4	
15		資器材を丁寧に取り扱いさせていたか	1	2	3	4	
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4	
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4	
18	CPR に関する留意点(AED ショック時に要救助者の体に触れていない。AED ショック時に周囲に適切なアナウンスがされている等)が適切であったか。CPR コーチとして若しくは CPR コーチへの指示は適切であったか。CPR コーチとは CPR 実施者に対して適切かの指示者。		1	2	3	4	
19	感染防止対策は十分であったか	最大13点					点
20	総括点	最大15点					点
		合計得点	100点満点中				点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

監 視 員 審 査 票

番号	項目	小項目	点数	小計
1	継続監視対応	他の監視員との連携は的確であったか	1 2 3 4 5	
2		救護活動に対しての行動は的確であったか	1 2 3 4 5	
3	有事対応	監視長の指示のもと、組織的な活動ができていたか	1 2 3 4 5	
4		FA 含め傷病者の観察方法は的確であったか	1 2 3 4 5	
5		公的救助機関への協力体制は十分であったか 搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1 2 3 4 5	
6		公的救助機関への申し送りは十分であったか	1 2 3 4 5	
7		他の監視員との連携は的確であったか 知り得た情報を監視員間で共有できていたか	1 2 3 4 5	
8	状況に合わせた対応	周囲の自然環境などを考慮して活動できいたか	1 2 3 4 5	
9		関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1 2 3 4 5	
10		資器材の取り扱いは習熟していたか	1 2 3 4 5	
11		観衆に配慮した行動ができていたか	1 2 3 4 5	
12	CPR に関する留意点(AED ショック時に要救助者の体に触れていない。AED ショック時に周囲に適切なアナウンスがされている等)が適切であったか。CPR コーチとして若しくは CPR コーチから受けた指示を適切に聞き取り、高度な連携が図れていたか。		1 2 3 4 5	
13	感染防止対策は十分であったか	最大20点		点
14	総括点	最大20点		点
合計得点			100点満点中	点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

救護手技審査票 CPR 評価基準

審査員氏名 実施チーム名

		Excellent	Good	Fair	Poor	適正な条件	評価基準	
CPR初動&搬送	判断に要した時間					10秒以内に1行	Excellent:迅速だった、Fair:時間がかかった、もしくは短い許容範囲内、Poor: CPR開始までに10秒以上の時間がかかった、もしくは短すぎる、観察していない	
	心停止判断の観察方法					異動脈の拍動、もしくは呼吸の有無を確認する	Excellent:適切だった、Fair:許容範囲内、Poor: 不適切、確認できていない	
	蘇生場所への搬送					安全かつ迅速に移動ができる	Excellent:適切だった、Fair:許容範囲内、Poor: 不適切、移動しなかった	
	応援の要請					迅速に応援要請をした	Excellent:適切だった、Fair:許容範囲内、Poor: 不適切、移動しなかった	
	※1初動と搬送についての総合印象						※1について Excellent:10点、Good: 7点、Fair: 5点、Poor: 1点	
胸骨圧迫	圧迫位置					胸骨の下半分	各評価項目について胸骨圧迫の全体時間のなかで	
	深さ					5~6cm	Excellent 90%以上できている	
	テンポ					100~120回/分程度: fair	Good 70%以上できている	
	リコイル					圧迫解除時に胸骨が元の位置に戻る	Fair 50%以上できている	
	絶え間ない胸骨圧迫					一連の経過の中で中断がない	Poor 50%もできていない	
	※2 胸骨圧迫総合印象						※2について Excellent:20点、Good: 15点、Fair: 5点、Poor: 1点	
呼吸吹込み法 (player が行った場合)	吸引・口腔内清拭					口腔内観察し、吐しゃ物等あれば除去する	しっかり除去できた: excellent, 除去したが残っている: Fair, 除去しない、または異物を押し込んでしまった: poor	
	使用器具					フィルター付マスクを用いる	フィルター付マスク: Excellent, フェイスシールド: Fair, 感染対策なし、もしくはBVM: poor	
	胸骨圧迫:人工呼吸					30対2	30対2: excellent, 許容範囲: good, それ以外: poor	
	胸郭のふがり					胸がしっかり挙がる	人工呼吸が全体の90%以上出来てい: excellent, 70% 以上できている: good, 50%以上できている: Fair, 50%もできていない: Poor	
	※3 安全で有効な人工呼吸が行われた場合のみの採点						※3について Excellent:10点、Good: 8点、Fair: 1点、Poor: 0点	
AED	パッドの位置					胸部右上と心尖部に貼付	適切な位置: Excellent, どちらか一方が不適切な位置だが心臓をはさんでいる: Fair, 両方とも不適切で新蔵王をはさんでいない: Poor	
	パッド装着中の胸骨圧迫の中断					パッド装着中には中断しない	中断せずに実施: Excellent, Poor: 中断	
	傷病者から離れたか					関係者全員が離れている	離れている: Excellent, だれかが接触している: Poor	
	ショック後の胸骨圧迫再開					迅速に再開した	迅速に再開した: Excellent, 再開に数秒以上かかった: Poor	
	※4 AEDの爆作の総合印象					迅速に再開する	適切だった: Excellent, パッドの位置のみ不適切だった: Fair, ショック時に誰かが接触していた: Poor	
							※4について Excellent:10点、Fair:5点、Poor:20点	
全体的な評価※4	※5 CPR総合評価(※1~※4をふまえて)						※5について Excellentもしくは50-40 点、Goodもしくは39-30点、Fairもしくは29-20点、Poorもしくは19点以下	

審 査 長 全 体 審 査 票

番号	項目		小項目	点数				小計	
1	継続監視対応		状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2			救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3			全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	監視長の指示のもと組織的な活動ができていたか	1	2	3	4		
5				FA 含め傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	
6				関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
7				観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
8				公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
9				搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
10				公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
11				監視長は、継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
12	状況に合わせた対応		関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
13			危険行為がなかったか	1	2	3	4		
14			資器材を丁寧に取り扱いわせていたか	1	2	3	4		
15			資器材の取扱いは習熟していたか	1	2	3	4		
16			監視長としての指揮項目は十分であったか	1	2	3	4		
17			必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか	1	2	3	4		
18			CPR に関する留意点(AED ショック時に要救助者の体に触れていない。AED ショック時に周囲に適切なアナウンスがされている等)が適切であったか。CPR コーチとして若しくは CPR コーチから受けた指示を適切に聞き取り、高度な連携が図れていたか。	1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか		最大13点					点	
20	総括点		最大15点					点	
		合計得点	100点満点中					点	

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

時間審査票 CCF 測定(CPR 中断時間測定)

番号	評価項目	時間	評価手法
1	119番通報は想定開始から	分 秒	CCF 測定アプリ評価
2	想定開始から傷病者への CPR 開始時間	分 秒	
3	人工呼吸含め胸骨圧迫の中断時間	3秒以上は評価が下がる	

CCF 測定アプリ評価し100%は100点と判断する。時間短縮の概念に伴う審査項目

CCF 測定アプリ → <https://omorishum.github.io/CCF-App-Ver.3/>



実施チーム名 _____

審査票総合評価配点割合

監視長審査票	30%
監視員審査票	50%
審査長全体審査票	10%
時間審査票	10%
救護手技審査票	別途評価

1. 審査票の担当者数に相違があるので、最終集計時の総合評価配点割合は上記を反映させます。

2. 審査票の内容・配点内訳・配点割合は変更ある可能性があります。

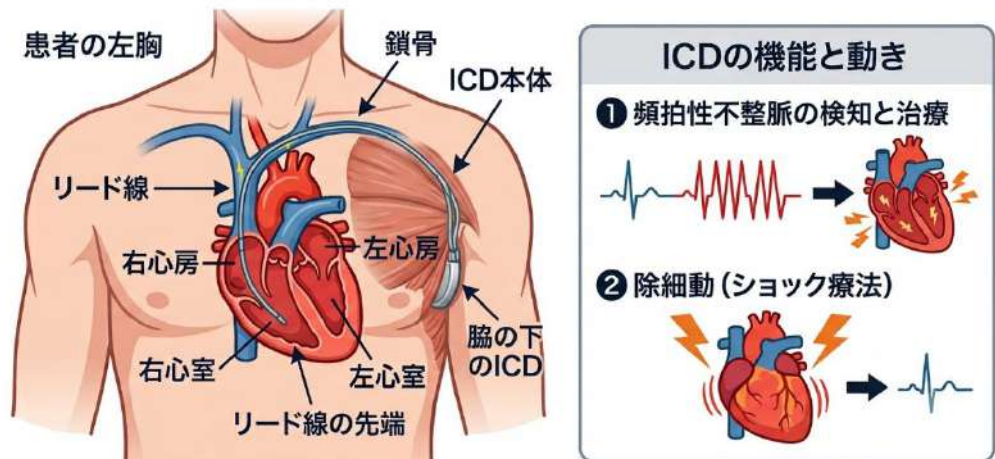
時間	項目
0 分	ライフセーバー（以下 L S）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 0 秒後スタート	監視本部に友人 A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、テント若しくはパラソルの下で一緒に休んでいた傷病者 A（年齢実年齢、学生、樋口陽介(ひぐちようすけ)若しくは陽子(ようこ)）が、気分が悪いと訴えてきて、どうしていいかわからなくなって、通報してきた。 傷病者 A は、体がぐったりし、力が入らない。吐き気やおう吐、頭痛などを訴える。 傷病者 A はライフセーバーと接触後 60 秒すると容態変化。右ふくらはぎに「こむら返り」が起き、筋肉がつった症状を訴えはじめる。負荷想定として当日の気温は 34 度。湿度 70%。
傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	【想定のねらい】傷病者の主訴（本人が訴える主な症状）などと、 十分な観察を行い 、どのような傷病状態か疑いをもって、適切な応急処置ができていないか。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけを含め傷病者 B が安心できる対応であったか。③傷病者をよく観察し、適切な手当ができたか。④感染防止対策は十分であったか。
想定開始後 45 秒後スタート	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 40m 程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者 B）が引き上げられたようだと通報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部にきたが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者 B（年齢実年齢、派遣社員、関根信子(のぶこ)）は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル 300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち 1 名が、波打ち際 20m 程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。傷病者の状態：LS 接触時、呼吸、脈、意識なしの状態から CPA と判断、左記状態以外は見たまま、外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。）傷病者が女性であることから観衆の前で衣類を脱がさず、AED パットを用いて心臓を挟むよう適切な位置に貼り付けたか。ICD（植え込み型除細動器）が埋め込まれていた場合どう判断するか。 訓練用 A E D を装着した場合は、解析するもショックの必要なし。実機用パットのため粘着力強。ライフセーバーの CPR 実施は訓練用ダミーを用意。バイタルの観察は生体を使用。呼吸なし、橈骨・総頸動脈触れない。大量の海水を飲んでいると想定される。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？ どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに 300m 離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着 1 分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】溺水により当初は意識レベル 300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPA の判断、③救急要請、④CPR の実施、⑤AED の扱いが適切かつ迅速であったか。AED パットの貼り付け位置が適切であったか。⑥CPR 中断の判断、⑦CPR 若しくは EAR を継続し、必要であればライフセーバー間の交代や連携はスムーズであったか。⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視 [重要]。⑪溺水に伴う脈の観察でどの動脈を選択したか。⑫リトルアンを使用するため形だけではなく人工呼吸や胸骨圧迫が適切に実施されているか。⑬意識・呼吸・脈の確認を形式的でなくしっかりと観察できているか。⑭注意事項；JLA では、「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2025（2025 年 6 月 25 日）」及び「新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2025」への質疑に対する解釈回答について(2025 年 10 月 23 日)に示したように、2026 年度はマウス・トゥ・マスクによる人工呼吸は傷病者と救助者の顔が至近になるため推奨していませんが、溺水の場合は低酸素血症が心停止の原因であることから、第 11 回シミュレーション審査会では、感染対策（HEPA フィルター付きポケットマスクの使用）をしたうえでの人工呼吸の実施は加対象とします。HEPA フィルターは高価であることから、ポケットマスク及び一方弁がある場合に限り、HEPA フィルターが装着されているものとみなします。なお、BVM は使用については JLA 活動ガイドラインで推奨していないことにご注意ください。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了。監視業務継続。統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及び J L A 側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

ICD（植え込み型除細動器）について

ICD（植え込み型除細動器：図 1）は、脈がはやくなる頻脈性の不整脈、中でも心臓のポンプの働きを担う心室が頻脈になる心室頻拍もしくは心室細動による突然死の予防を図るための器械です。ICD は常にあなたの心拍を見張り、頻拍の発生を検知すると不整脈が停止するよう自動的に電気ショックなどの治療を行います。

ICD（植え込み型除細動器）の仕組み



AED パットを適切な位置に貼り付けたか

